

【日時】5月9日 19:00～ 【会場】中部学院大学 5号館4階 5401教室

【テーマ】～機能解剖シリーズ～

「膝関節機能解剖」

【担当者】苅谷 賢二先生 (所属:野口整形外科内科医院 理学療法士)

今回は、機能解剖シリーズとして、「膝関節機能解剖」を野口整形外科内科医院の苅谷賢二先生に講義していただいた。

今回は、半月板を中心とした膝関節の機能解剖の講義と安定化に関わる膝周囲の組織の触診を行い、理解を深めていくものであった。

講義では膝関節の骨形態・靭帯・半月板・筋・膝蓋下脂肪体・膝蓋上嚢など基本的な解剖の確認を行った。また、それぞれの組織が膝関節にどのような作用を及ぼしているかを運動学の視点から紹介された。

半月板の機能としては、文献によっても多少異なるが、関節の荷重分散・関節の安定化・関節の潤滑・関節軟骨の栄養補給の4つが挙げられた。

荷重分散機能については、内側半月板の完全切除を行った際の大腿骨・脛骨接触圧が235%増加する結果が得られており、いかに半月板が荷重分散に作用しているかが示唆された。

また、半月板はその形状から関節の安定化に働き、内側半月板には前十字靭帯が損傷した際に脛骨の前方への引き出しを二次的に制動する役割がある。そのため、前十字靭帯が損傷した際には半月板損傷の有無の確認と、その後の治療の選択の重要性を確認した。

触診では、膝関節周囲の靭帯・膝蓋支帯・筋・半月板の触診を行った。内側・外側広筋は、膝関節伸筋群であるが起始部は大腿骨粗線であり大腿後面に位置する。そのため、触診では特に外側広筋は後方まで正確に確認を行った。

半月板の触診では、関節操作を正確に行った上での筋収縮の誘導や、組織を避けて半月板を触知することなど、注意点が多く存在する。臨床においては、これらの注意点を考慮し、正確な操作・触診を行うことの重要性が示唆された。

今回は、膝関節の解剖学と運動学について知識を確認した上で、触診を行うことの重要性を再確認し臨床に繋がる貴重な講義となった。

文責：

宮川孔明（中部学院大学理学療法学科4年）

苅谷賢二（野口整形外科内科医院）